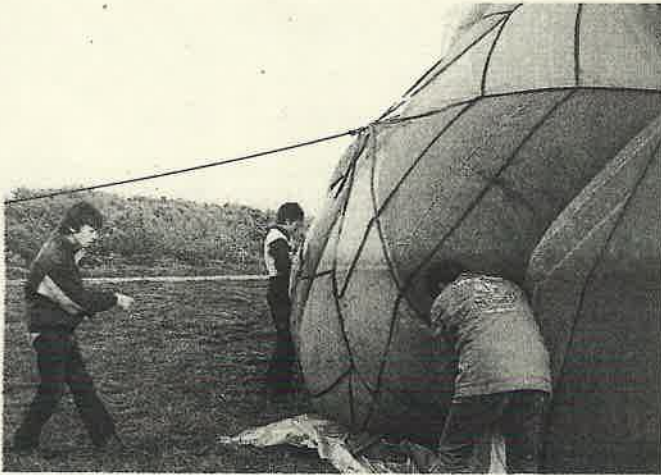


上位入賞を目指して練習に励むバルーンクラブの部員たち



佐賀大フケットチ

佐賀大学にも熱気球部があります。創部は一九八七年。顧問の荒牧教授によると経済学部のある二人の学生が「顧問になつてく

ださい」と訪ねてきたことが始まりのこと。熱気球部はできたものの自分たちのバルーンはなく、ほかの

気球や大会で手伝いをするのが活動という日々でした。ある日、思いがけない話が飛び込んできました。三菱石油がガス代付きで熱気球を貸与するというので、学生たちは大喜びしました。自前の気球を持つために四苦八苦していた他大学のクラブか

熱気球部 フェスタで活躍

らは大いにうらやましがられたということ。その後、「佐賀大学」という文字の入った真正銘、自前の熱気球もでき、二十八人の部員がいるまでに成長しました。今年大会にはパイロットも誕生し、今大会には四年生の和田浩さんが競技に参加していますし、その他の部員も競技役員として活躍しています。もう一つの話は、今年初めて会場内の憩いの広場「パブリックゾーン」に佐賀大学のブースを設けました。ここでも学生たちが活躍しています。

学生手作りの陶器や新米、サツマイモ、大学が開発した新しい野菜「バラフ」の販売を行っています。美術の学生に似顔絵を描いてもらえるコーナーも。大学を紹介する映像やパンフレットなども用意しています。

(佐賀大学理事・北島悦子)

◇
さまざまな施設や取り組みを紹介しながら、地域とともに歩む佐賀大学の「今」を伝えます。来年十月まで毎月二回掲載します。(次回は二十日の予定です)